

東野朱音「現代のコミュニケーション・ツール、LINEの実態」

「余暇＝本業以外のことをする時間」であると私は考える。そうすると学生にとっての余暇とは本業である勉強以外のことをする時間、例えばサークル活動やアルバイトなどを指す。社会人にとっては仕事以外の時間、主に休日や仕事帰りの飲み会、などが該当する。

以上を踏まえた上で、私にとって余暇とは何かと考えたとき、真っ先に思い付くのは所属する三つのサークル活動やアルバイトである。そして、これらの共通点を考えると全てにおいてLINEの存在があることに気づいた。日常的にはLINEを使用していることが最も多い。小さなことから連絡事項・意見交換まで多様な形で利用している。そこで最近急速に浸透しつつあるLINEについて栃木県内の高校生・大学生合計28人にアンケート調査に協力してもらい、その結果について考察していく。

回答からわかることとして高校生・大学生に共通していたのは、全員がLINEをメールの代わりとして使うことである。高校生はLINEの多様なコミュニケーション手段（メッセージの送信や通話、一部スタンプ機能など）が無料で使える点をメリットと考えている。一方、大学生はLINEが複数の人とやりとりが可能な点に特に利便性を見出している。

なぜ相違が生じるのであろうか。それは大学では高校までと異なり、サークルでなどの様々なコミュニティで多くの人と関わり、学生が主体となって活動をするため多くの連絡事項をできるだけ効率よくメンバー全員に伝達する必要があるからだと考えられる。

同様にML（メーリングリスト）もグループに登録してあるメンバー全員に連絡を回すことができるが、どうしても送り手の一方的な通達になってしまいかねない。一方、LINEは既読機能により、何人が読んだのか一目で確認でき、その場ですぐに反応できるため双方のやりとりが可能である。複数の人と相互にやりとりできる点がLINEが好まれている理由の一つである。しかし同時にLINEのデメリットとして「メールより気軽であるため、関係ない会話が生じやすく、なかなか話がまとまらない」というような回答もあった。私自身、同じような経験は何度もある。メンバーからの反応が悪いと直接話し合った方が逆に効率よいのではないかと思ってしまう。逆に意見を求められても自分が忙しいときには、通知は読む（既読はつける）が反応を後回しにすることがある。メリットをデメリットに変えないために、折角の便利なコミュニケーション・ツールを無駄にしないために予めグループでルールを決めておくといよい。そうすることでトラブルにつながる確率は低くなる。または、LINE側が既読をつけた人を確認できる機能をつけることを提案する。

また、LINEの機能の一つであるクーポンの利用についてだが高校生の三分の一が、大学生の25%が使用したことがある結果となった。そして、一度使った人は複数回使う傾向にあることもわかった。数えきれないほど利用している、と回答した人もいた。次の課題として、LINEの公式アカウントを持つ企業にその経済効果などを調査したい。

LINEは現代において身近で便利なコミュニケーション・ツールであり、同時に様々な問題も含む。LINEの長所を最大限生かし、生活を一層便利にするために、LINEの使用者一人一人がその利用と関わり方について考える必要があると私は結論付ける。